



# 子どもたちから 憧れられる選手になりたい

こうよう  
仲村 光陽さん(東新町出身)

多くのプロ野球選手を輩出した尽誠学園高校(香川)野球部の副キャプテンとしてチームを引っ張った仲村光陽さん。4月から大学野球の強豪として知られる国学院大学に進学し、新たな場所での活躍に希望を膨らませます。

仲村さんは野球経験を持つ父親の影響で、物心ついたときからバットを握ります。小・中学と野球にのめり込み、高校進学の際には「父と同じユニホームを着て、父の甲子園ベスト4の記録を超えたい」と父親の背中を追って、香川県の尽誠学園野球部の門をたたきました。

尽誠学園では厳しい寮生活にも耐え、甲子園出場を目指して奮闘します。そして、勝てば翌年春のセンバツ出場が濃厚となる四国大会準決勝。同点の5回に放った仲村さんのホームランが決勝点となり、尽誠学園にとって18年ぶりのセンバツ出場を決めます。「試合に懸ける思いが強くあり、毎晩自主練習を行っていました。ホームランを打つことができると本当に良かったです」と当時を振り返ります。しかし、新型コロナウイルスの影響で無情にも春のセンバツの中止が決定。夢の切符をつかみ、父親の記録を超えるために練習に励んでいた仲村さんは「人生で一番つらい瞬間でした。何のために今まで頑張ってきたのかと心が折れかけました」と失意のどん底に。さらに追い打ちをかけるように夏の甲子園の中止が決定。それでも副キャプテンとしてチームを引っ張る仲村さん。「しんどい姿を見せた

り、弱音を吐いたりしないようにしました。チームを鼓舞し、励まし合って練習しました」と県独自の大会に向けて苦しい練習に励んでいたところに、甲子園交流試合の開催という思いがけない知らせが届きます。「甲子園で試合できるという喜びでいっぱいになりました。18年間、甲子園で校歌を歌えていなかったので絶対に勝ちたいと気持ちを切り替えて練習に励みました」と話し、チームは見事勝利を収めました。

卒業後の進路については「甲子園がなくなりました。大学4年間で鍛え直して、さらに自分を磨いて実力をアピールしたい」と悩んだ末に、次の活躍の場は大学と決めます。

今後について「一年生の春からレギュラーとして活躍できるように頑張ります。そして4年間試合に出続けて、ドラフト1位でプロに行くというのが大きな目標です。大府では僕に憧れてくれる野球少年が増えてくれるといいな」と目を輝かせて話します。

野球は自分自身を成長させてくれる存在だと話す仲村さん。将来、プロ野球選手としてバッターボックスに立ち、観客を魅了する姿が目に見えます。



▲2020年甲子園交流試合(智井和歌山戦)での打席

## cover

大府みどり公園のミモザを背景にじゃれ合う風見燎くん・花ちゃんの兄弟。このミモザの木は、姉妹都市であるオーストラリアのポート・フィリップ市から贈られたものです。金色に輝くミモザを見るとうっとりしますね。

